

■ 手をつなぎ、心通わす ゆう ゆう 誘・融（融け合う）老上（老上小学校）

1 【活動の趣旨】

創立 133 年の歴史がある本校は、様々な場面で多くの地域の方から支えられてきた。平成 28 年 4 月に老上西小学校が新設され分離したが、駅周辺の開発により、今後も児童数が増加する見込みの中で、地域の方が本校に寄せる思いは引き続き熱いものがある。

地域協働合校の取組を通して、子どもたちが身近な地域の方の考え方や人柄などにたくさん触れ、ふるさとを愛し、豊かな人間性を身につけてほしいと考え、実践している。

2 【特徴的な活動内容】

○米や野菜の栽培・収穫

「老上ふれあい農業合校」と学校が連携・協働して、子どもたちの農業体験・自然体験を行っている。子どもたちは米や野菜を作る楽しさ、収穫の喜びを知り、自分たちが口にする食材に感謝の気持ちが持てるようになることをめあてに学習している。

地域住民との協働から、農業の大切さを学ぶだけでなく、世代間の交流も図られている。学校では、学習の成果や感謝の気持ちを表現する場を通して、学習のみの関わりにとどめず、地域に戻った時にも声をかけあえる関係ができ、地域の活性化にもつながっている。



【草ふみ体験】

3 【実施に当たっての工夫】

○実施にあたっては、地域コーディネーターが農業合校と学校の連絡調整を行いプログラムを作成している。その際、学校の授業内容やねらいなども意識することで学校と地域の取組がつながるようにしている。また、農業合校の畑には行事予定や年間の作業を掲示するホワイトボードが設置されており、いつでも地域住民が確認できるようになっている。

○新型コロナウイルス感染症対策として、収穫した作物と一緒に調理したり、食したりする活動はできなかったが、家庭へ持ち帰り、家族間で話題を共有しながら味わうことができた。



【さつまいも掘り】

4 【事業の成果】

○子どもたちが地域の方の支援に触れる場面が増え、地域の方やふるさとへの愛着を感じ、豊かな人間性を養うきっかけとなる取組となっている。

○推進委員は世代を超えて老上小学校の体験活動を支援してくださっていることから、親子間で地域の話ができるなど家庭教育的な役割も果たしている。

5 【事業実施上の課題】

○取組を充実させるため、入念な打合せや準備等が必要となる。学校・地域双方の負担を軽減するため、地域コーディネーターの果たす役割は大きく、必要不可欠となっている。